

\* \* \* \*

インドアッサム地方に固有な蘚として知られていた単型属の *Pleuridiella* が日本 (広島県) にも分布することが正規標準本との比較検討の結果明らかとなった。日本産の標本と正規標準本との詳細な比較, 解剖観察を行った結果, これまで不明であった本種の雌雄性が通常は雌雄共立同株, しばしば雌雄列立同株であることが明らかになった。Robinson (1964) によると *Pleuridiella* は 1) 鐘状のカリプトラを持つ, 2) 口環を欠く, 3) 気孔が朔の基部付近にある, 4) 葉は反曲する葉縁と乳嘴状の細胞を持つ, という形質の組み合わせにより他のキンシゴケ科の属と区別された。しかし本属を, それに最も近縁であると思われるキンシゴケ科の *Pleuridium* と *Eccremidium* と比較した結果, Robinson (1964) が区別した形質はことごとく現在理解されている *Pleuridium* のもつ形質の中に含まれてしまい, また *Pleuridiella* を属として特別に区別する形質が他には見つからない。従って, 筆者らは *Pleuridiella* を *Pleuridium* の異名として取扱った。その結果, *Pleuridium colei* (Robins.) Deguchi & Matsui (マキバキンシゴケ, 新称) なる新組合せを提案した。本報告のもとになった標本は1971年の4月に水田雑草群落を調査していた際, 水田の湿土上に生育していたものである。植物体は全長 2-3 mm と微小で標本から判断して, 一年生の蘚類であると思われる。

□ Schofield, W. B.: **Introduction to bryology** 431 pp. 1985. Macmillan Publ., New York. \$42.50. 蘚苔類に関する基本的な事柄について, 図や写真を豊富に取り入れて解説した入門書であり, 大学等で蘚苔類の研究を始めようとする学生にとって, 格好の教科書となるものである。蘚苔類の主要な群について形態, 発生, 系統等に関する解説, 蘚苔類の細胞学, 生理学, 生態学, 分布論等に加え, 蘚苔類の研究法, 術語解説などを付す。各章には関連する文献が示してあり, より深い研究への足がかりとなっている。本書の基となったものは, 著者の British Columbia 大学における20年間の講義であり, これは蘚苔類が人間をとりまく環境の重要な一員であることを学生に認識させようという目的でなされたものである。本書はこの目的を十二分に果たした教科書である。(井上 浩)

□ Vitt, D. H., S. R. Gradstein & Z. Iwatsuki (ed.): **Compendium of bryology** 355 pp. 1985. J. Cramer, Braunschweig. DM 60. 国際蘚苔類学会 (IAB) の事業の一つとして1976年に “Bryological Herbaria” が出版され, 1979年には “Directory of bryologists and bryological research” が出版されたが, この両方を一体化して改訂増補したものが今回の出版物である。内容は, 世界中の蘚苔類標本の所在 (個人を含む), 蘚苔類の採集家 (1700年代から現代まで), 及び最近の蘚苔類研究者 (50ヶ国, 約600名) とその研究内容の3部から成る。蘚苔類の研究動向を知るためのデータを与えてくれる一冊である。(井上 浩)